建設未来京都フォーラム 2015 作品集

✧記念事業Ⅰ

建設業をテーマにした子どもたちの作文集

『未 来 へ の ま な ざ し』

建設未来京都フォーラム

「わたしの大切なお父さんとお母さん」

小学校5年生

私のお父さんとお母さんは、同じ会社で働いています。お父さんは、現場で働いていてお母さんは、事む仕事をしています。

家で、会社のことを話す時が多く、少しさみしい時もあるけど、その時、弟とあそんでいるから、さみしさがふっとんでいきます。でも、お父さんが、現場に出ていないとき、紙を折ったりして手伝いをしています。

私からみて、お父さんは、会社でせんむとしてつとめているすがたが大好きです。

理由は、お父さんがせんむでありみんなからたよりにされたり、みんなと話していて、だれとでも、親しくできるところです。私は、そういうお父さんが大好きです。また、お父さんは6時30分～45分の間に出て、夜7時30分～8時15分くらいにだいたい帰ってきます。おそい時もあるけど、私はその分がんばってくれているんだと思っています。

20×20

　私からみて、お母さんは、すごい人だと、思います。なぜなら、事む員が1人しかいないから、いろんなことを決められた時間でやるのは大変だと思うからです。私はそんな、お母さんを見ならいたいです。

　私は、しょう来お父さんや、お母さんみたいな、人間になりたいです。そして、お父さんとお母さんは大切なそん在です。お父さんとお母さんがいるから、ごはんがたべられるし、学校にいける、今こうして文が書ける、お父さんとお母さんに感謝しています。

20 × 20

「わたしと建設業」

高等学校建設科3年生

私は、中学生の時に高校を決めるとき「高校生になりたい。」その思いしかありませんでした。

そんな時、建設系の仕事をしている母に、「工業高校に入って測量士にでもなりなさい」と言われてその気になりました。これが、建設業に入るきっかけです。

でも、その頃の私の中での建設業に対するイメージは、怖そうな職人さんたちや危険で汚くてきつい仕事だと思っていました。

工業高校に入学し、初めの頃は、将来は測量士になり、地図に残る仕事がしたいと考えていました。

でも、2年生の時に県内の建設会社にインターンシップ現場に行かせてもらいました。

その現場で働いている人達をみて、大変できつそうだけど私にはとても生き生きと、仕事をしているように見えました。

20×20

そんな、現場を見て私も、現場監督として働きたいという思いが芽生えました。

私は、東日本大震災の時の津波や、先日の鬼怒川の河川決壊は、もしかしたら少しでも被害が抑えられていたかもと、時々思うときがあります。なぜなら、構造物を作る時に数十年のデータの平均値でその容量を超えたら決壊するように設計してあるそうです。私は、その話を聞いた時に、なんとなくですがダメだなと感じました。なぜなら、自然災害はいつどこでどんな風に起こるか想像がつきません。だからこそ、設計の段階で防波堤ならあと1、2メートルあげるなどして完璧じゃないけど被害を最小限に抑えられればと思いました。

土木構造物は一つの事業に1億は当たり前の世界です。新しいものを作るにはとてつもないお金がかかります。だから、まずは今ある構造物はどんな状態でどんな風にメンテナンスをしたらいいかを学ぶことと、来月に行

われる土木施工管理技士2級の学科をとり、現場で活躍したいと思っています。

男社会の中で仕事をすることは、想像以上に大変だと思います。体力勝負では、負けてしまうかもしれません。でも、それ以外の女性にしかできないことを精一杯やっていきたいと思っています。

20×20

「働く母を見て」

中学二年生

私の母は建設会社で勤務しています。私が想像していた建設業とは道路を工事したり建物を建てたりするというイメージがとても強かったです。ですが、私の母の仕事は事務処理です。最前線の工事部の人を影でサポートしています。私のおばあちゃんも母と同じ建設業で事務処理をしています。私のおばあちゃんと母は朝早くから夕方までパソコンと毎日にらめっこしています。

家に帰ってから急いでご飯の準備をしてくれています。母の体は1つしかないので料理を作りながら洗濯をたたんだりは出来ないので、私や妹たち家族で協力して家の手伝いをしています。考えてみると、お母さんは何て大変なんだろうと改めて思います。これが毎日続くと思うと「ゾッ」とします。でもこれを毎日頑張ってくれている母の事を考えると、私も、もっと頑張らないといけないし、母を

20×20

尊敬しないといけないと思いました。働く母の姿を見て、勉強になることがありました。このことを今後、たくさんの所で活かせていけたらいいなと思います。

20 × 20

「わたしのお父さん」

小学校二年生

わたしのお父さんの会社はけんせつ会社です。いつもとてもいそがしそうです。とくに台風が来た時は、わたしたちは学校が休みになるけれど、お父さんは朝早く夜おそくに会社に行きます。台風でまわりの人たちが、こまった事があった時に、助けられるように会社でまっているそうです。けんせつ会社はみんなを守る事が仕事だとお父さんが言っていました。わたしはそんなお父さんをとてもかっこいいと思います。

わたしはときどきお父さんといっしょに工事のげんばを見にいくことがあります。大きいきかいにのせてもらったときは、かっこよくてうれしかったです。お父さんが作ったどうろはとてもきれいです。そのどうろをたくさんの車が通っていてすごいと思いました。

それからときどき会社のみんなでバーベキューをしたり、ボーリング大会をしたりする

20 × 20

ことがあります。ボーリング大会は会社の人のかぞくもくるのでにぎやかでたのしいです。

　お父さんはおこる時はとてもこわいけど、いろいろな所につれていってくれたり、わたしのきもちをなんでもわかってくれるので、だいすきです。かぞくやまわりの人のためにがんばるお父さんはすごいと思います。

20 × 20